



## 2022年会長研修会報告

11月28日、29日に3年ぶりに一泊の会長研修会を実施しました。

研修の目的は災害からの復興について。

一日目は福島県双葉町の「東日本大災害・原子力災害伝承館」を見学し、地震が発生した時から、津波が発生した時点、更に原子力発電所が爆発し放射能による避難開始などの、指令・指示がリアルに書かれたホワイトボードが当時のまま保管されていたのが展示されており、報道では得られない“生の声”を聞いたような感覚がありました。



伝承館での講義があり、原子力発電所が作られ、当時12,000人だった富岡町の人口が増え、発電所の雇用により町は活気づき、生活も潤った。しかし、震災が発生し津波が襲い、更に発電所の爆発で避難を余儀なくされ、避難生活は6年以上にも及び、その間の関連死も含め453名の命を失った。地震・津波による死者数は24名だったのと比較すると20倍以上！“天災より人災”人間が作った原発は天災よりも多くの人間の命を奪う結果になったと。あまりにも重い言葉に、どう受け止めていいか？

語り部の方の伝えたい事は何なのか？

記事にするために私は何人もの会長に問いかけました。

其々捉え方は多岐にわたりましたが、人間が作った物が人間の命を、町を破壊したのは事実であり、原発は作らなければ良かったと言いたいのか？発電された電力は都心で使用されている。

福島に作らないでほしかったという事なのでしょう。

しかし、破壊された町の復興を行ったのも人間です。災害から11年。学校は再建され、二日目に見学した「いわき震災伝承みらい館」の建築は驚くほど立派な造りでした。それは人間の成せる技です。復興に尽力した人間の力に着眼点を置いたら？と思います。私たちの住む町田市は津波に襲われる事は無く、原発もありませんが、町田には道路や鉄道が高架を走り、ビルが立ち並び、モノレールも通ります。もし多摩東部大地震が起こり、追い打ちをかけるように大雨が降り、崖崩れ、土砂災害、更に境川が氾濫した場合、山側の町も河川沿いの町も、駅周辺も崩壊したとしたら、私たちはどのように対処していくのでしょうか？起こり得る災害の被害を最小限に防ぐにはどう備えればいいのか、また復興するには何が不可欠なのか、深く考えさせられた研修会だったと思います。

編集副委員長 渡代真知子



今回の研修会には47名の会長・相談役が参加。

天候にも恵まれ、大型バス2台で、旅を堪能することが出来、コロナ渦で2年以上も町会の活動、運営、対処に困惑し、乗り越えた！とは、まだ言えない状況ですが、親睦を深め共に町会活動に頑張る活力が養われた素晴らしい研修会でした。

11 11

10

2

1

2

1

1.

2026



2.

2023

3.

4



2024 4

5

2022

11 30

